

ほろやん

332 ドクターストップ



大崎短歌会

兼題「自由・もち」

こともなく無事に過ごしし辰年を
送る今宵の月にありがとう 坂元つる子
出来たての柚餅子いたたく香り良き
ひたすらに待つ家人の帰り 上南紀子
雪降る夜餅焼く亡母の面影は
香ばしきかな懐かしきかな 井元かず子
囲炉裏火に餅の坊主や夢孕み
族笑みにし元日の朝 馬場みさ
我が昭和家族総出の餅つきは
モロフタ重ねハツラツの亡母 川崎健一
娘より本十冊のプレゼント 穂園芳江
年末年始読書三昧

幾つかの危機乗り越えて雑煮喰む

菜の花5本厨に活けて

冬枯れの横瀬の浦に出てみれば

千鳥鳴く鳴く七キ口の浜

手植えした餅米つきしこどもらの

あんこ餅かや笑い飛び出す

山下海征

実吉安仁

美吉安仁

榎山重子

薩摩郷句

兼題「捻い」

首ぶ捻い 医者ん診察ち 青おけなつ
(唱) 悪いたろかいち 胸がどつどつ 遠矢耐多
痴漢ぬば 軽る捻い込だ 柔道娘
(唱) 娘いかかれば 痴漢も形無し 上村牛歩

妙だ名前 うぶ声欄に 首ぶ捻い

(唱) 字画が良たる 難し名前

北村虎王

お捻ゆば 多額貫る出た 孫ん踊い

(唱) 腰の振り用が 凄ぜか人気

上窪小絵

鶏の首ぶ 捻つ料理ちよい 木強女房

(唱) 平常の優し 母さんじゃいけ

西ノ園ひらり

こん耳が 悪い言て年中 捻らえつ

(唱) 少とそつとじゃ 効目ん無息子じゃ

諸木小春

大谷を 容易す捻つた ダルビツシユ

(唱) さすが大谷 先輩ゆ立てつ

二見愚楽満

狂句作いに 捻い過ぎたや 可笑しゆなつ

(唱) 訳ん解らん 狂句いひんなけつ

満石うらら

棟上げん 踊い子んしな 凄ぜ捻い

(唱) 肝大つなつて 万札つ弾ん

長重リリー

狂句デビュー 一人前へなつ 頭を捻つ

(唱) 初デビューじゃるか 将来が楽しゆん

佐藤ほつちちゃん

耳んじゃばを 利かん太郎じゃち 引ちや捻つ

(唱) 捻いきつどち 気の短け父

藤元鬼瓦